



「ごめん」の一言だけでいい…



この4月から、我が家の子ども達も皆自立し、夫と2人だけの生活になりました。先日、お恥ずかしいことに久しぶりの大げんかをしました。「子はかすがい」の「子」が不在だからもう大変。長引くこと…。事の始まりは夫の小さなうっかりミス、今となっては私自身思い出せないくらい些細なことだったと思います。ところがこれをきっかけに二人で「〇〇だからこうなったのだ」と言いわけ合戦がスタートしてしまい、いつまでも同じフレーズの言葉がむなしく居間の中を飛び交います。とうとう二人ともだんまり。顔を合わせないまま、ただ時間だけが過ぎていきました。

数時間後、気の短い私はとうとう切り出しました。これだけは伝えなくちゃと思い、冷めた声で「最初の『ごめん』だけ欲しい、他は何もいらない」「……ごめん」「…私も。ごめん」これで長い時間の格闘はようやく終わりました。



また、先日上京中の娘ともこんなことがありました。入院している「おじいちゃん」宛てに彼女が書いた手紙を、その内容に感動した私達夫婦はつい「おばあちゃん」にも見せてしまったのです。何気なく娘に知らせると、本人から直にひどくお怒りのメールが来ました。

「人の手紙を勝手に誰かに見せるなんて…最悪！！」私は、とてもいい手紙だったからとか感動したとか、いろいろ言いわけしましたが、彼女は一言

「まず、謝ってよ！」

それ以外の言葉は、もはやなにも受け付けてはくれませんでした。翌朝、私たち夫婦はそれぞれに反省し「ごめんなさい」とメールしました。彼女の返信は、一言「うむ」でした。

さて、私たちは、今年度、保護者会で2回の講演会（CAP・児童相談所）から子育てに関していろいろな手法を学びました。もちろん単なるテクニックではなく「私たちの愛情を子どもにきちんと伝えるために効果的な表現を学ぶ」というものでした。

けれども実際に聞いた内容はとても盛りだくさんで、すぐに取り組もうとしても今までの習慣があり、なかなか思うようにはいきません。後の質疑応答で、「どうしたらあきらめないで続けていけますか？」という問いに対し中垣氏は、

「自転車の練習と似ています」と教えてくれました。練習しては転んで怪我して泣いてまた練習…すると、いつの間にか出来ていた！このような感覚だと…。もし、失敗したときは

「あ～あ、またやっちゃった！」と笑えばいいんです、これでかなり楽になりますよ、と。失敗してしまった自分を「よしよし」と許してあげる…子育てには大切なことなのですね。

それから私は、もう一つ忘れていたことに気が付きました。子どもをしつけようとしてうまくいかなかったとき、いやな思いをさせた子ども側の傷ついた心はそのまま置き去りにされているかも知れない…。

もし、私たちが自転車運転の練習中に、誰かにぶつかったり人の物を壊したりしたら、相手にむかってまず最初に「ごめんなさい」を言います。「練習中だからいいでしょ！」なんて開き直ったら、相手は怒り出すでしょう。

ところがこれが「子育て」の練習中になると、親がすぐその場で子どもに謝るなんてなかなかありません。いつも慣れ親しみ近すぎる家族だからこそ、うっかり陥りやすい「落とし穴」となるのです。

左に書いた二つの出来事を通して、私は今さらながら夫婦も子どもも同じだと気付きました。そればかりか、一番愛し甘えられる家族に謝るといのはどんなにむづかしいかをつくづく思い知らされました。わかっていても心が全然ついてこないのです。

先日、クラブの1年生で「ごめんなさい」は「負け」だから言わない！と主張した子がいました。また人に「お願い」するのは「自分のことは自分でする」のに反して人に頼ることだからダメ、と信じている子もいました。人は一人では生きていけません。「ごめん」「おねがい」は高慢になってきた自分を振り返り、謙虚な心を取り戻すために、実に大切なことばではないでしょうか。

あの重たく暗い空気の中に、勇気ある「ごめんなさい」を投じた人こそ「平和を作り出す人」となるのです。そして、この一言があるから、私たちは、日々自分をリセットでき「新しい自分」になって一日のスタートが切れるのです。子どもだって大人だって、同じです。



2000年前のローマ帝国時代、キリスト教を布教したかの有名なパウロも、なかなか自分をコントロールできない悲しい思いを告白しています。

「私には、自分のしていることがわかりません。私は自分がしたいと思うことをしているのではなく、自分が憎むことを行なっているからです。」（新約聖書）

今日も、子ども達の素直さに教えられます。「早くごめんなさいしちゃえよ！そしたらまたすぐ遊べるじゃん」

(T)

